

【実践報告】

教育実習Ⅱ（幼）の報告

広島文教大学教育学部

教育学科 准教授 田中 崇教

教授 杉山 浩之

1 はじめに

幼稚園教諭一種免許状の取得を希望する学生（初等教育学科幼児教育コース3年次生42名）を対象とした「教育実習Ⅱ（以下、本科目と略記）」（3年次前期開講）は、本学科指定の幼稚園で実習を行い、幼稚園教諭に必要な実践力の涵養を目的とする。広島文教大学人間科学部初等教育学科「教育実習記録」は、教育実習の意義を次の5点に集約する。

①教育の理論と実践の一体化、②基本的教育技術の習得、③発達期にある幼児の理解、④教育的人間関係における相互作用についての学修、⑤教育者としての自覚高揚

2 実施のスケジュール

(1) 事前・事後学修

- 第1回 2018年11月30日（金）14:50-15:35
実習に関する基本理解、実習園の確認、課題の確認
- 第2回 2019年1月16日（水）14:05-15:35
実習に関する基礎理解、実習に関する情報交換、課題提出
- 第3回 2019年4月17日（水）14:05-15:35
課題の確認、実習および事前訪問に向けた確認作業（実習費等事務手続きを含む）
- 第4回 2019年4月26日（木）16:30-18:00
実習園事前訪問の実施、園課題の確認
- 第5回 2019年5月15日（水）14:05-15:35
実習に関する最終確認、事後課題の確認
- 第6回 2019年6月19日（火）16:30-18:00
課題提出、事後報告会に向けた課題への取り組み（グループワーク）
- 第7回 2019年6月25日（火）16:30-18:00
報告会に向けた最終打ち合わせ（グループワーク）
- 第8回 2019年7月10日（水）17:25-18:55
報告会ならびに全体の振り返り
- 随時 2019年7月期
園評価開示・個別指導

(2) 実習

- I期 2019年5月20日（月） - 5月31日（金） 10日間
- II期 2019年6月3日（月） - 6月14日（金） 10日間 *実習の補充延長等あり

3 実施概要

2018-2019年度にわたり行われた5回の事前学修では、教育実習Ⅶ（観察実習）や教育実習Ⅰ（学内実習）に基づき、教育実習の意義・目的、教育実習において求められる課題および必要事項（事務手続き等を含む）について説明した。とりわけ実習生としての基本的な姿勢については、学ぶ立場にある謙虚な姿勢を取ることに加え、信用失墜行為の禁止および守秘義務の遵守を中心に指導を行った。また、実習園事前訪問から実習開始にかけて実施すべき必要最低限の事項をチェックリストによって確認した。また、実習園事前訪問は2019年4月26日に一斉に各園にて実施した。

実習期間中では、例年、幼児教育コース教員（5名）による訪問指導が数回行われ、各学生の状況等について報告が寄せられた。今年度の特徴として、まず荒天を理由とした実習日程の延長があった。6月14日（金）に広島市地域を中心に荒天状態となり、実習園の中には休園となった所もあった。各園で開園・休園の対応がそれぞれであったが、学生はおおむね冷静に対応し、園の指示に基づく対応（実習延長）を本学に報告した。不測の事態に対する対応は事前指導事項として取り扱っているが、実際に事態に陥った際には十分な対応が難しい。学生らも緊張や不安が募る中で判断に迫られた状況であったが、大過なく応じていたと考えられる。他方で、昨年度と同様に体調不良による欠席者や遅刻者の報告があった。この時期、天候不良による寒暖差や本科目が初めての本実習であるがゆえの思わぬ疲労の蓄積による罹患と推測される。特に後者の対策として、幼児教育コースでは、2年次に教育実習Ⅶに加え、幼児教育学演習Ⅳや教育実習Ⅰの中に附属幼稚園での実地見学・演習を組み込んでいる。さらには、長期休暇を利用して保育ボランティア等を推奨しているものの、彼女らがほどよい緊張感を維持しつつ円滑に実習に臨むことができる指導改善を講じる余地がある。

事後学修（実習の振り返り）では、各グループで報告会に向けた作業を行うと同時に、報告会運営役員を中心に報告会が予定通りに運営された。準備作業では、各グループの討議活動が活発化されるよう、基本的検討課題の提示や話しやすい環境風土の構成に工夫を講じた。また学生による自主的な報告会運営を図った。準備段階から当日にかけて、運営役員を中心に責任感をもって積極的に活動する姿がみられた。これらから受講学生らから比較的熱心に最後まで取り組む姿勢が確認される。なお、2019年度より新たに始めた試みとして「振り返りシート」を作成し、学生の自己省察をさせるとともに、事後の「評価開示」指導の資料として用いた。

4 成果と課題

本科目では教育実習Ⅶ及び教育実習Ⅰおよび保育実習との連動性を意識し、必要な指導や情報提供を行うと同時に、その都度これまでの学修（関連資料）の確認を促した。こうした成果や課題を学生の「振り返りシート」に基づき以下検討する。

まず、「学生が実感する成長・効力」として「実習を完遂することができた」点を多くの学生が記載している。実習前ではこれから始まるという不安に苛まれ、実習中でも園業務や課題（日誌や指導案・教材研究など）に追われる日々を乗り切ったという意識に他ならない。専門職保育者としての経験を積みあげることが自身で確認できた点と推測される。他方で、「学生が実感する＜これから専門職保育者として成長するための＞課題」として「状況に応じた判断・対応の必要性」をあげる学生が少なくない。学生らは、「思考上では認識できているにもかかわらず、実際の場面で十分な判断に基づく対応ができなかった」と述懐する。「経験の積み重ね」といった類の安易な声掛けを避け、こうした意識をもつ学生の自己成長に以下に寄与していくかを検討することが必要と思われる。以後の保育実習、教育実習Ⅲ、教職実践演習における指導上の課題として幼児教育コースで共有すべきであろう。